

議会の話題や出来事をお知らせします。

# 議会ニュース

- ・町立診療所に関する特別委員会行政視察（5月24日）

## 町立診療所に関する

### 知床らうす国民健康保険診療所

#### ◇診療所の指定管理者制度導入について

平成19年に医師不足や看護師の退職などから経営が悪化し、救急・入院を中止、48床の病院から19床の診療所に転換することとなった。

その後、持続可能な地域医療の提供を行うため、平成24

年7月から指定管理方式で釧路の社会医療法人孝仁会による診療が開始され、町民代表や学識経験者で構成する診療所運営協議会において運営評価や助言を行っている。

現在の診療体制は、常勤医師2名と出張医で入院14床と人工透析3床を運営し、初期

救急医療にも対応している。診療科目は、内科・外科・小児科と専門外来で脳神経外科・循環器内科・整形外科・皮膚科・消化器内科・婦人科の診療を月1回行っている。



平成26年度の診療所開設に向け、本町においても町民に親しまれ利用しやすい医療体制を構築していく必要があります。

## 町立診療所に関する特別委員会

### ～ 開催状況報告 ～

#### 第1回（3月8日）

- ◆佐呂間町立診療所の設置及び管理に関する条例を審議
- ◆町立診療所設置に係る地域説明会の開催結果について
- ◆当面の町立診療所の運営について
- ◆佐呂間厚生クリニックの診療体制について

#### 第2回（4月30日）

- ◆クリニックさろま 指定管理に基づく基本合意書について

#### 第3回（5月9日）

- ◆クリニックさろまに係る指定管理者の指定について
- ◆クリニックさろまの指定管理に基づく基本合意書の調印式について
- ◆クリニックさろま開設に係る補正予算について

#### 第4回（5月29日）

- ◆町立診療所設置に係る補正予算（佐呂間厚生クリニック改修事業）について

診療所内を視察



会議室で概要説明を受ける



# 議会ニュース

・ 常任委員会現地調査

常任委員会

## 総務福祉 常任委員会

5月29日総務福祉常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

### 現地調査箇所

- ・ 自書式投票用紙読取分類機
- ・ 戸籍電算化
- ・ 若佐公衆トイレ



自書式投票用紙読取分類機

戸籍の電算化では、証明書が見やすくなり事務処理が迅速化されたことから、より一層の窓口サービスの充実が図られるものと期待します。若佐公衆トイレは、地区唯



戸籍電算化

一の公衆トイレですが、和式のため高齢者や身体の不自由な人たちの利用に配慮し、洋式トイレの設置を望むものがあります。



若佐公衆トイレ

## 産業文教 常任委員会

5月30日産業文教常任委員会終了後、現地調査を実施しました。

### 現地調査箇所

- ・ 橋梁長寿命化
  - ・ ピラオ口展望台
  - ・ 佐呂間簡易水道浄水場
- 橋梁長寿命化では、町内18橋のうち、建設後40年以上経過するものもあり、限られた予算の中にあっても計画的な維持管理を望むものがあります。



橋梁長寿命化

ピラオ口展望台は、サロマ湖を眺望できる場所として整備されていますが、一部木々により眺望がさえぎられるところがあり、関係機関との協



ピラオ口展望台

議などで改善されるよう望むものがあります。

佐呂間簡易水道浄水場は、増設部分に水道機器が整備され安定的に通水されている状況にありますが、ライフラインとして重要な施設でありますので、適切な管理体制の確立と安定供給を望むものがあります。



佐呂間簡易水道浄水場

# 「佐呂間野球スポーツ少年団」

まちで輝いている人たちを紹介します



私たち佐呂間野球スポーツ少年団「佐呂間ライオンズ」は、現在1年生から6年生までの14名で活動しています。

元気な挨拶、感謝・思いやりの気持ち、チームプレーに大切な心を育てる事を目的としており、みんな仲良く、明るく元気に野球を楽しんでいます。

練習は1年を通して行っており、冬期間は、ホワイトドームや町体育館で基礎トレーニングやフットサルで体づくりをしています。雪が解けるといよいよ球春。佐小グラウンドで週に3～4日、本格的な実践練習

習を行い、週末には練習試合や公式戦、休日により体を休めることも練習の一環としています。なかなか良い試合結果ばかりではありませんが、子ども達の日々成長していく姿が見られます。また、今年初めて開催される女子選手だけの全国大会に遠紋地区混成チームが北海道代表になり、我がチームから住吉美波さん(浜小6年)が選抜出場します。

これからも、指導者のもといつも応援してくれる家族や周りの皆さんに感謝し、精一杯元気に活動していきます。

あとがき

「旅立ちのかたち」

夕方、身内の供養からの帰り道、グランティアサロマ湖前の国道で身をゆらし手を上げていた男性がいる。この日六月の異常な暑さに一瞬「異常者か?」、しかし握った右手の親指が地面をさしている。「おや、こんなの映画で見たな」、停車と同時に丸刈り頭の若者が大きなバックと地図を持って走り寄ってきた。間くとヒッチハイクで稚内まで行くという。とり合えず湧別か紋別まで今日のうちにと云った。それならばと、その方面に向う路上まで送ることにした。中・高生の二人の孫のいがけり頭がオーバーラップする。ビニール袋の大きなパン、「飲み物はあるの?」「いえ、何も」「じゃあ、ちょっと待ってね」缶コーヒを数本手渡す。若者は、礼儀正しく素直で、とても心地良い。

今年一年間は国内を旅し、進学はその後にすると東京から今朝北海道へ、網走が出発点だった。この若者は自分で育ての旅に出る。見知らぬ人に声をかけ、目的を果たすにはどれ程勇気がいるだろう。沢山の重圧に耐えやり抜いた時、人生への大きな財産と宝物を手に来よう。

「頑張れ!」。うまく行けたらどうか、今も気になる。

(高瀬トシエ)